

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10または13（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円
1,000円（4月11日より）
お問合せ：03-6684-6692

2月8日（土） 迷いからの脱出 ー迷わない方がおかしいでしょ！
末木文美士 先生 東京大学名誉教授

2月22日（土） 迷いからの脱出ー縁起的主体性の実現
ケネス田中 先生 武蔵野大学名誉教授

3月14日（土） 迷いからの脱出ー仏智に導かれ
丘山 新 先生 浄土真宗本願寺派総合研究所所長

3月28日（土） 迷いからの脱出
島蘭 進 先生 上智大学教授

4月11日（土） これからの仏教
田畑正久 先生 佐藤第二病院院長・元龍谷大学教授

5月9日（土） これからの仏教
田代俊孝 先生 仁愛大学学長

6月13日（土） これからの仏教
加藤みち子 先生 東方学院講師

大阪 時間：午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階会議室（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問合せ：06-6346-7000

3月6日（金） 老いを受け入れ、共に生きる
奈倉道隆 先生 東海学園大学名誉教授

5月15日（金） 演題未定
西山 厚 先生 帝塚山大学文化創造学科教授

いのち尊し

第34号
いのち尊し
令和2年2月1日
公益社団法人 在家仏教協会
〒101-0062
東京都千代田区 神田駿河台3-3 五明館ビル202号
TEL 03-6684-6692
FAX 03-6684-6709

輪読会「鈴木大拙を読む」報告七

「霊性」とはどんなことか

菅原伸郎（協会会員）

輪読会「鈴木大拙を読む」の第七回会合が、東京・駿河台の在家仏教協会事務所で一月十五日に開かれた。参加者は六名。テキストは角川文庫版『日本の霊性』百六頁から百二十頁までだった。

太平洋戦争を背景に執筆された本書、その第二篇「日本の霊性の顕現」は核心部だろう。前回に勉強した第一部「日本の霊性の胎動と仏教」ではインドから中国へ、そして平安朝へ、いわば発展途上の仏教が紹介された。そして今回の第二部「霊性」では、鎌倉期に花開いたその本質を、やや高飛車にこう語り始める。

「霊性の動きは現世の事相に対しての深い反省から始まる。この反省は遂には因果の世界から離脱して永遠常住のものを攫（つか）みたいという願いに進む」

この「深い反省」とは何か。自分の行為や思考への後悔などではあるまい。当然と思われる日常への自省、つまり常識的な「因果の世界」の根本的転換だ。今回の発表者である私は、ここでフランツ・カフカの小説『変身』の冒頭部分をあえて紹介してみた。

「ある朝、グレーゴル・ザムザがなにか気がかりな夢から目をさますと、自分が寝床の中で一匹の巨大な虫に変わっているのを発見した」（高橋義孝訳、新潮文庫）

唐突にこう始まるのだが、理解のためにはまず従来の自己が壊されなければならぬ。この主人公はもうだれとも、家族とも、すべての世間とも隔絶された世界に生まれ変わってしまうのだ。

まさに言語道断、不立文字の世

界だ。何とも説明のしようがない。大拙先生は、一無位の真人、万象之中独露身、南泉一株花といった禅語を次々に登場させるが、こればかりは以心伝心とはいかない。実存主義作家アルベール・カミュは「不条理」という言葉を使ったが、私はここで学生時代に読んだジャン・ポール・サルトルの小説『嘔吐』（白井浩司訳、人文書院）の一節を紹介した。

「マロニエの根は、ちようど私の腰掛けていたベンチの真下の大地に、深くつきささっていた。：：言葉は消え失せ、言葉とともに事物の意味もその使用法も、また事物の表面に人間が記した弱い符号もみな消え去った。：：その塊は私に恐怖を与えた。それから、私はあの天啓を得たのである」

輪読会の出席者には、禅寺で参禅を重ねた居士もおられる。そうした方にはご理解いただけるとしても、天啓とか超個とか、ともかく難解な語句が次々に現れる。しかし、大拙先生はその反応を予見

しておられたかのような。本書では禅宗よりもむしろ、親鸞の実存理解について言葉を重ねていく。たとえば、一〇九頁にはこんな文章があった。

「この超個の人が本当の個己である。『歎異抄』にある「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人（いちにん）がためなりけり」という、この親鸞一人である」

こうした文章の背景には、浄土理解の問題がある。多くの浄土系寺院では、江戸教学とも呼ばれる立場から、死後の極楽浄土が実在するかのようには説いてきた。しかし、この「親鸞いちにんがためなりけり」という言葉こそが釈尊以来の仏教理解であり、その実存的な世界を「浄土」と呼んだのだ。臨濟禅からスタートしたはずの大拙先生が、本書では「禅者は（本来の）浄土系思想を解せず」（一一〇頁）と仲間をからかっているようにおもしろかった。

次回は二月十九日（水）午前十一時から、東京・駿河台の協会事務所、今回の「霊性」の後半を読み解く。多数のご参加をお待ちしています。

この一冊

カルロ・ロヴェッツリ『時間
は存在しない』（富永星訳
NHK出版）

中村俊也
（協会会員）

物理学などもとより縁のない身
ながら、タイトルに惹かれて書店
で手に取り、正月休みに「挑戦」
してみました。

冒頭、山の上と低地とでは時間
の速さが違うというショッキング
な事実を突きつけられます。難解
な数式を使うことなく平易な例え
を用いて「時間は存在しない」こ
とが説かれていきます。私たちの
直感との違和感に刺激されて読み

続けていくと、何と（やはり）仏
陀が登場するではありませんか。
神話から宗教・哲学、古典文学に
至るまで、幅広く深く展開される
物理学者の興味深い思索を是非皆
さんとも分かちたいと思ってお便り
させていただきます。

本書は三部構成になっていて、
第一部では現代物理学で明らかに
された科学的事実を踏まえ、時間
に関する誤った見方を解きほぐし
ていきます。それを受け第二部で
は、「根源的な時間のない世界」
をいかに記述すべきかが探求され、
著者によると、「根源にあるのは、
時間・空間に先立つネットワーク
であり、そこに時間の流れは存在
しない」と展開されます。では、
なぜ人間には、過去から未来に向
かう時間の流れが当たり前の事実
のように感じられるのか。この謎

を解き明かそうと、先鋭的かつ刺
激的な筆者の仮説が描かれるのが
第三部となります。

仏典『ミリンダ王の問い』を引
用し、私たちのアイデンティティ
の主要構成要素として①世界に対
するひとつの視点②世界を反映し
て形成される自分③過去からの各
瞬間を結びつける記憶、の三つを
挙げ、③の記憶こそが時間の概念
を生みだしているとし、「時間は、
本質的に記憶と予測でできた脳の
持ち主であるわたしたちヒトの、
この世界との相互作用の形であり、
わたしたちのアイデンティティ
の源」であり「苦しみの源」だと
結論します。

物理学的には時間という変数は
なく、過去と未来の差もない。
「わたしたちは過去や未来に苦し
むのではなく、今この場所で、記
憶のなかで、予測のなかで苦しむ」。
物理学の枠を超えた科学者の広大
無辺な思索によって、まさに仏教
の教えが解き明かされた思いのす
る一冊です。



原稿をお待ちしています
◇「仏教と私」（八百字以内）
人生を振り返って仏教と出逢っ
たときの感動をお書きください。
◇読者からの手紙（八百字以内）
講演会（講演録）の感想など
をお書きください。
◇コラム「この一冊」（八百字
以内）
感銘を受けた書籍を紹介して
ください。新刊だけでなく、思
い出の本も歓迎します。著者名、
出版社名、発行年を忘れずに。
*
原稿用紙またはメールに添付
して、左記宛てにお送りくださ
い。住所、氏名、電話番号、よ
ろしければ職業と年齢もお書き
ください。読みやすくするため
に、あるいは編集上の都合で、
趣旨を変えない範囲で削ったり
直したりする場合があります。
採用分には薄謝をお送りします。
原稿の送り先は、〒101-0100
〇六二 東京都千代田区神田駿
河台三二二 五明館ビル 二〇二
在家仏教協会「いのち尊し」
係。メールはkaminura@zaikabuk
kyo.com.jp。

金光寿郎理事が逝去

在家仏教協会の金光寿郎（かな
みつ・としお）理事が一月十九日、
川崎市内の病院で肺炎のために亡
くなりました。九十二歳だった。
金光さんは岡山県出身。京都大

学を卒業後、NHKに入局。「こ
ころの時代」「宗教の時間」など
の番組を制作し、定年退職後も同
局の宗教番組制作に尽力した。二
〇〇二年からは本会理事。二〇一
五年には公益財団法人仏教伝道協
会の仏教伝道文化賞を受けている。

年会費・会場整理費の変更および

大阪会場休会のお知らせ

■現在の正会員の年会費八千円を
一万円に変更いたします。（四月
以降、順次お願いする次第です）

■大阪会場を休会とさせていただきます。
（五月十五日が最終講演
となります）

■東京会場は、月二回開催を四月
より月一回開催（原則第一土曜日）
に変更いたします。

■講演会会場整理費を四月より七
百円から千円に変更いたします。

在家仏教協会 四つの信条

- 一、 釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、 釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に
知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならぬと
信じていること。
- 三、 呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、 在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

活動を中止せざるを得なくなりま
した。このような状況の中、昨年
十一月開催の理事会において、会
費の値上げ、講演会活動の縮小を
中心とした財政再建策を決定し、
本年、四月より実施することとい
ました。

今回の変更により、会員、講演
会来場の皆様には一層のご負担と
ご迷惑をおかけすることとなりま
す。ただ、私どもは倫理観が希薄
となっていくこの時代に、一年で
も長く活動を続け、仏教の教えを
お届けしたいと思っております。
何卒趣旨をご理解をいただき、引
続きご支援をいただきますよう宜
しくお願い申し上げます。

ご寄付のお願い

当協会は、東京、大阪にて講演
会活動を行っておりますが、その
多くは寄附金によって賄われてお
ります。講演会の存続のために温
かいご支援をお願い致します。

協会への寄附金は税制優遇が受
けられます。個人様からの寄附と
法人様からの寄附について、事例
を上げてご案内いたします。

★所得税
所得金額から「寄付金(所得金額

の40%が限度)2,000円」
を控除することができます。

事例

年中の総所得金額が500万円、
寄附金の合計額が20万円の場合
20万円×2,000円=19万8,
000円が、総所得金額より控除
されます。

★法人税

法人が支出する寄付金は、その
法人の資本金等の額、所得の金額
に応じた一定の限度額までが損金
に算入されます。このとき、公益
法人に対する寄付については、一
般寄付金の損金算入限度額とは別
に、別枠の損金算入限度額が設け
られております。

事例

資本金が10億円、年中の所得金
額が1億円の場合

- ①一般損金算入限度額Ⅱ（10億
円×2,500円）+（1億
円×2,500円）×0.25
=125万円
- ②別枠の損金算入限度額Ⅱ（10
億円×3,750円）+1億
円×6,250円×0.5
=500万円

したがって、①②の合計額625
万円の損金算入が認められます。